



令和 4 年 1 月 6 日
海 上 保 安 庁

日本提案の海底地形名が国際会議で承認

世界の海底地形名を標準化するための国際会議において、ゴジラメガムリオン地形区等、日本から提案した海底地形名が 18 件承認されました。

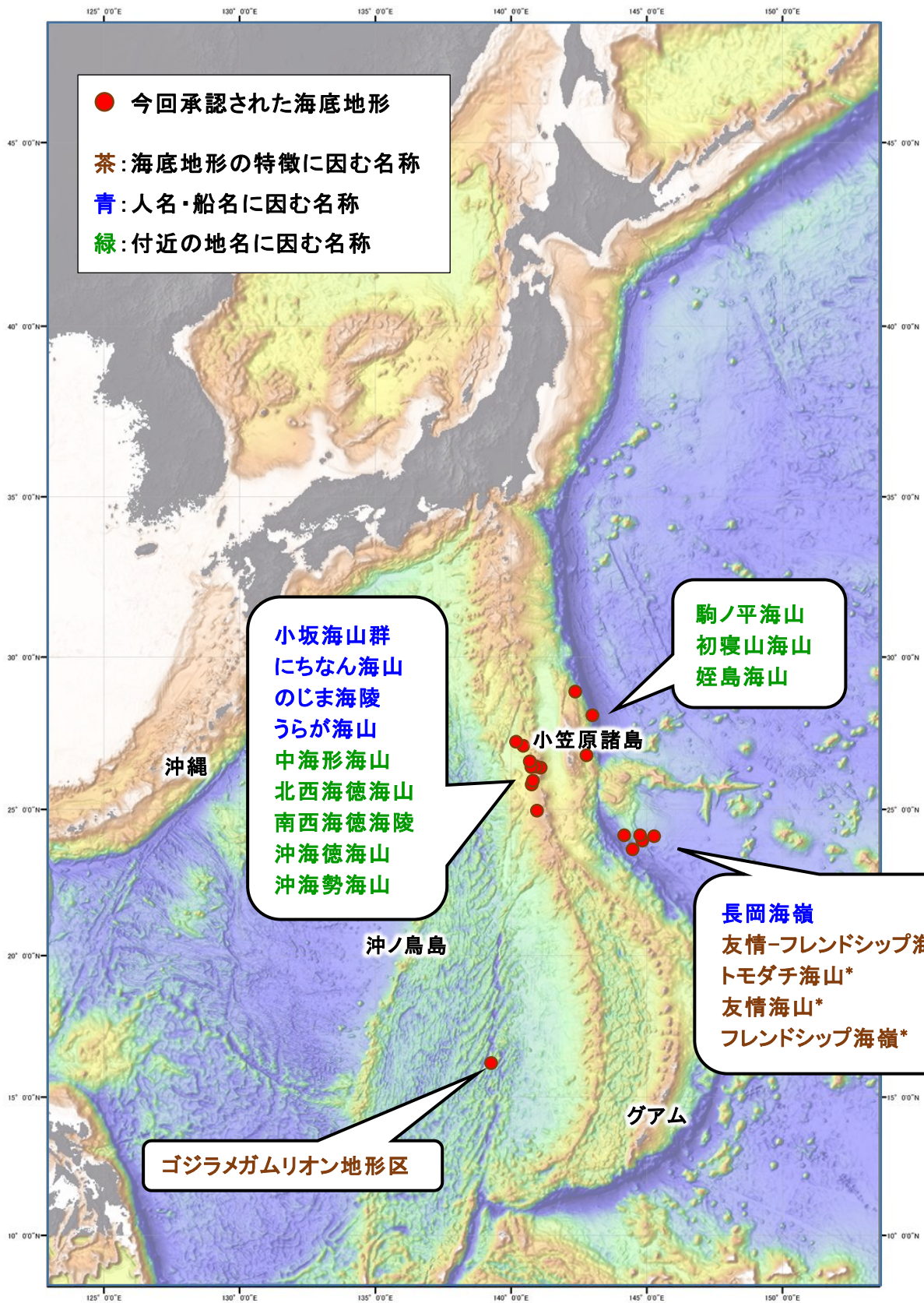
国際水路機関（IHO）とユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）が共同で設置する「海底地形名小委員会」※が令和 3 年 1 月、6 月、11 月にオンライン会議として開催され、審議の結果が今般発表されました。

今次会合において、ゴジラメガムリオン地形区等、我が国が新たに提案した海底地形名 18 件が承認されました。

我が国から提案し承認された名称は、主に小笠原諸島付近の海底地形を対象に、海底地形の特徴、人名・船名、付近の地名に因んで付けられたものです。（別紙参照）

これらの海底地形名は、IHO/IOC 海底地形名集に掲載されることで世界中に周知され、今後地図・海図や論文などに使われることになります。

※海底地形名小委員会（SCUFN）とは、世界の海底地形名を標準化するための学術的な委員会です。誰でも、領海外の海底地形について SCUFN へ提案することができますが、我が国では海上保安庁が委嘱した有識者で構成される「海底地形の名称に関する検討会」における検討を経て提案を行っています。海底地形には、原則として、近傍地名、船名、海洋に貢献した故人名・機関名等に因んだ名称を付けることができます。また、同類の海底地形の集合に対しては、星、鳥、暦等、グループの名称を付けることができます。



*については、米国との共同提案

海底地形の特徴に因む名称（5件）（*については、米国と共同提案）

ゴジラメガムリオン地形区（ごじらめがむりおんちけいく）
友情-フレンドシップ海嶺*（ゆうじょう-ふれんどしっぷかいいい）
トモダチ海山*（ともだちかいざん）
友情海山*（ゆうじょうかいざん）
フレンドシップ海嶺*（ふれんどしっぷかいいい）

人名・船名に因む名称（5件）

にちなん海山（にちなんかいざん）
のじま海陵（のじまかいりょう）
うらが海山（うらがかいざん）
小坂海山群（おさかかいざんぐん）
長岡海嶺（ながおかかいいい）

付近の地名に因む名称（8件）

駒ノ平海山（こまのたいらかいざん）
初寝山海山（はつねやまかいざん）
姪島海山（めいしまかいざん）
中海形海山（なかかいかたかいざん）
北西海徳海山（ほくせいかいとくかいざん）
南西海徳海陵（なんせいかいとくかいりょう）
沖海徳海山（おきかいとくかいざん）
沖海勢海山（おきかいせかいざん）

(1) ゴジラメガムリオン地形区

メガムリオンとは、海底拡大に伴う大規模な正断層に伴い、海底面にマントル物質などが露出したドーム状の高まりで、その表面に畝状の構造を持つことが特徴である。

ゴジラメガムリオン地形区は、2001年、日本政府による大陸棚画定調査の際、沖ノ鳥島南東方で発見された。その大きさは、東京都の面積の約3倍、他のメガムリオンの約10倍もあり、現在見つかっているメガムリオンの中で地球上最大のものである。そのため、その巨大さから、日本が世界に誇る東宝怪獣「ゴジラ」の名が引用され、命名された。世界に分布するメガムリオンの中で、名称が国際的に登録されたのは、このゴジラメガムリオン地形区が初めてである。

ゴジラメガムリオン地形区は海洋科学において非常に重要な研究対象であり、日本を中心とする国際的研究グループによる調査の結果、フィリピン海プレートの組成・構造に関する重要な研究成果が得られている。

参考：<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GI/JUTSUKOKUSAI/KENKYU/index.html>

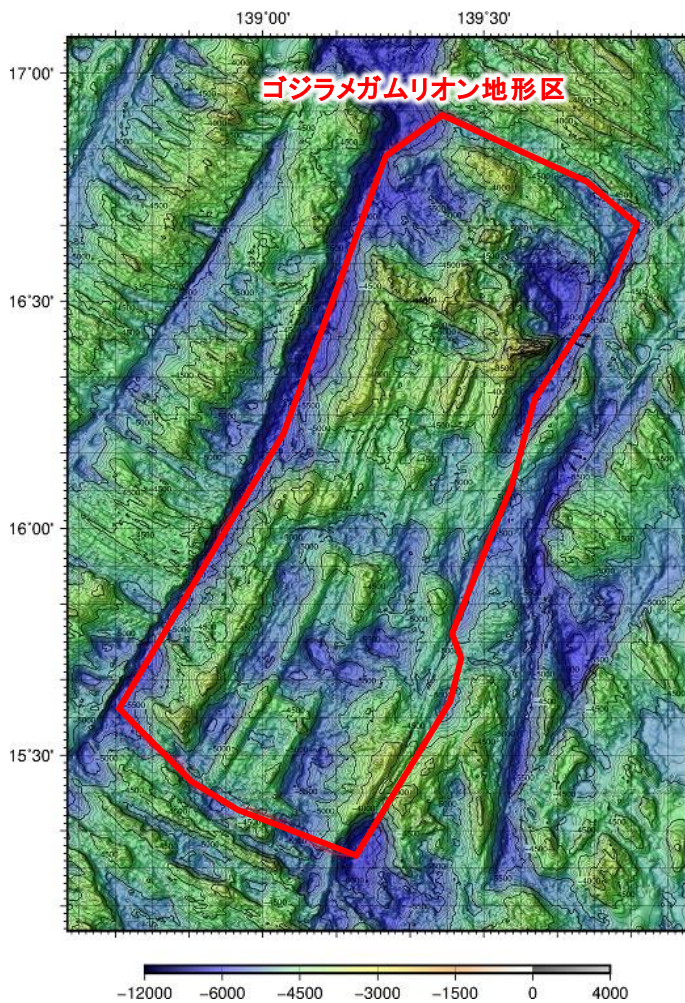


図 1-1: ゴジラメガムリオン地形区全体図

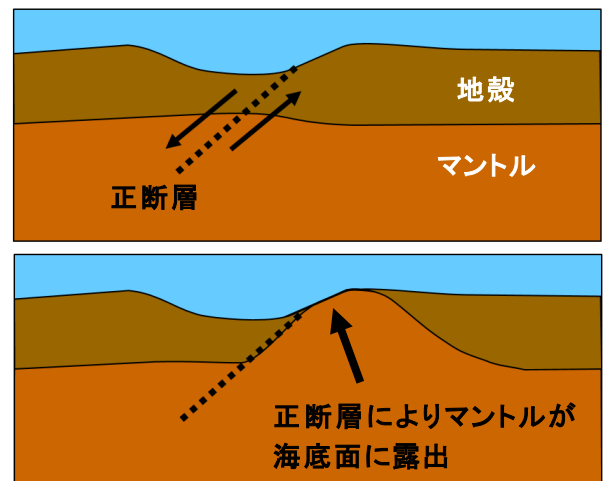


図 1-2: メガムリオンの成因 (Tuchokle et al., 1998 の図を改変)
正断層により、地殻の下のマントルが海底面に露出し、メガムリオンが形成される。

(2) 友情-フレンドシップ海嶺、トモダチ海山、友情海山、フレンドシップ海嶺

友情-フレンドシップ海嶺は、小笠原諸島南東に位置する長さ約 170km 程の海底の山脈である。この地形は日本と米国の排他的経済水域をまたがっているため、東日本大震災における支援等に象徴される日米の友好の懸け橋として、日米共同提案により名称が付与された。この海嶺の周囲にある海底地形にも、日米の友好関係を示す名称が付与されている。

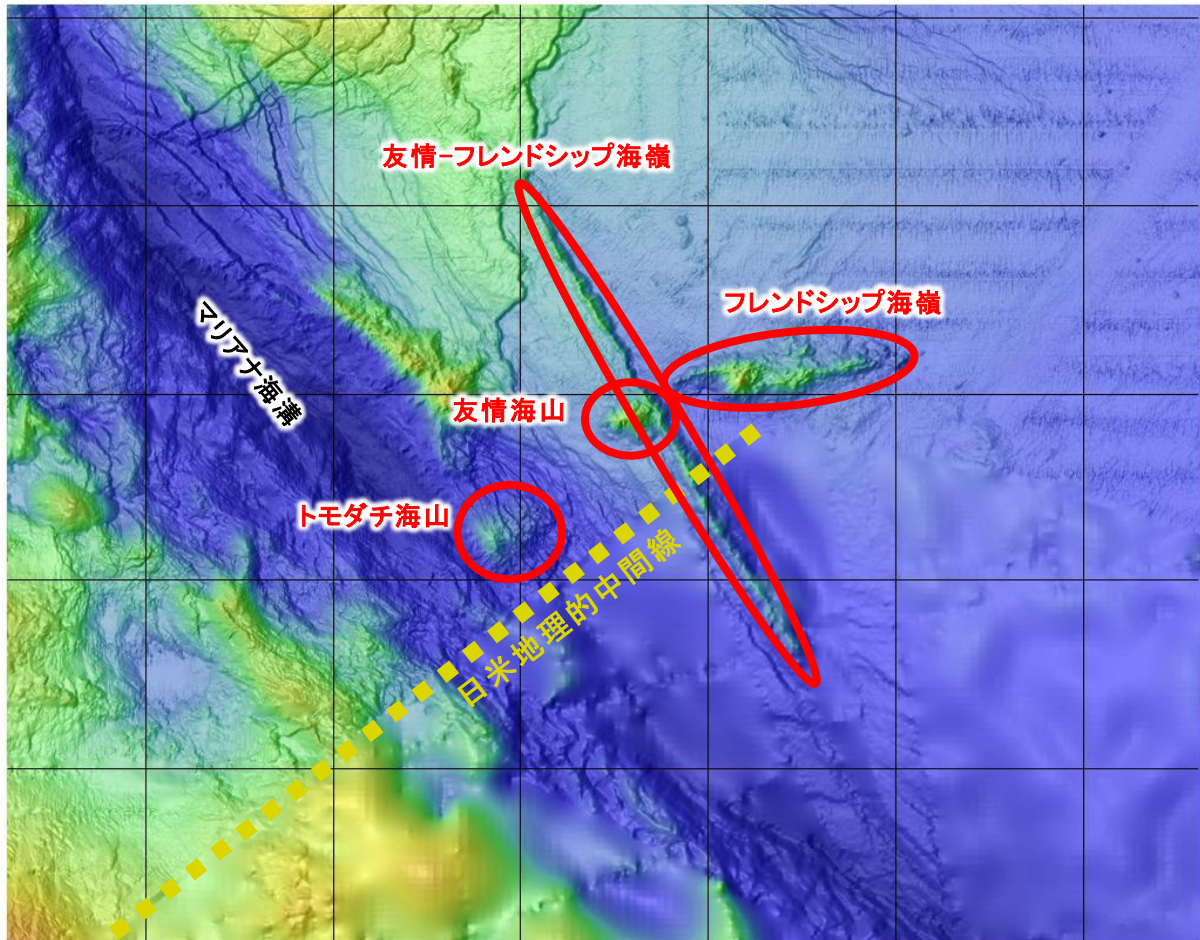


図 2: 友情-フレンドシップ海嶺周辺海域

(3) 小坂海山群

小坂海山群は、小笠原諸島西方に位置する海山の集合で、本海域の火山の研究をされていた故小坂文予（おさか じょうよ）東京工業大学名誉教授に敬意を表して名称が付与された。

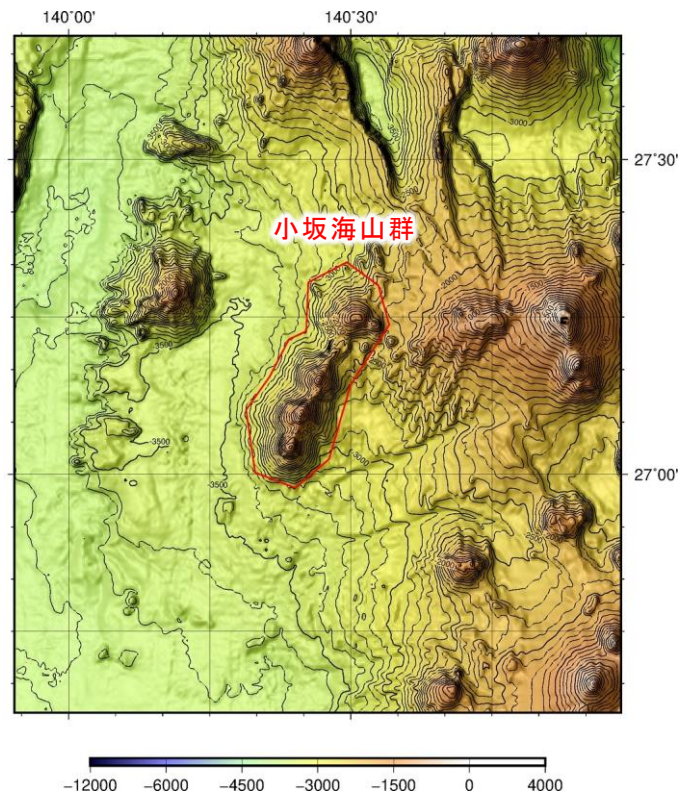


図 3: 小坂海山群

(4) 長岡海嶺

長岡海嶺は、小笠原諸島南東方に位置する海底の山脈で、当海域周辺の海底地形を研究されていた故長岡信治（ながおか しんじ）長崎大学教授に敬意を表して名称が付与された。

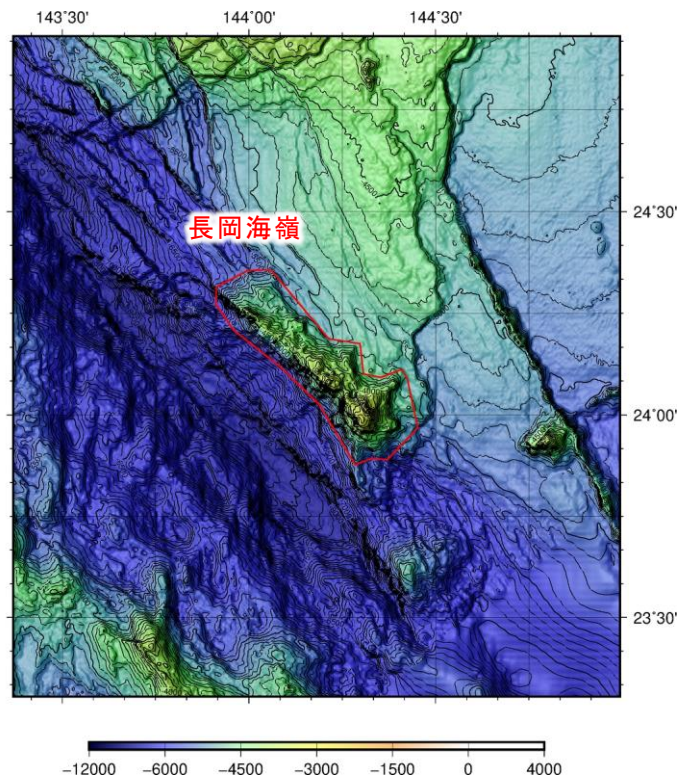


図 4: 長岡海嶺

(5) にちなん海山

にちなん海山は小笠原諸島西方に位置する海山で、防衛省の観測艦「にちなん」が大陸棚画定調査時にこの海山を発見した。その功績を表して、この海山に「にちなん」の名称が付与された。

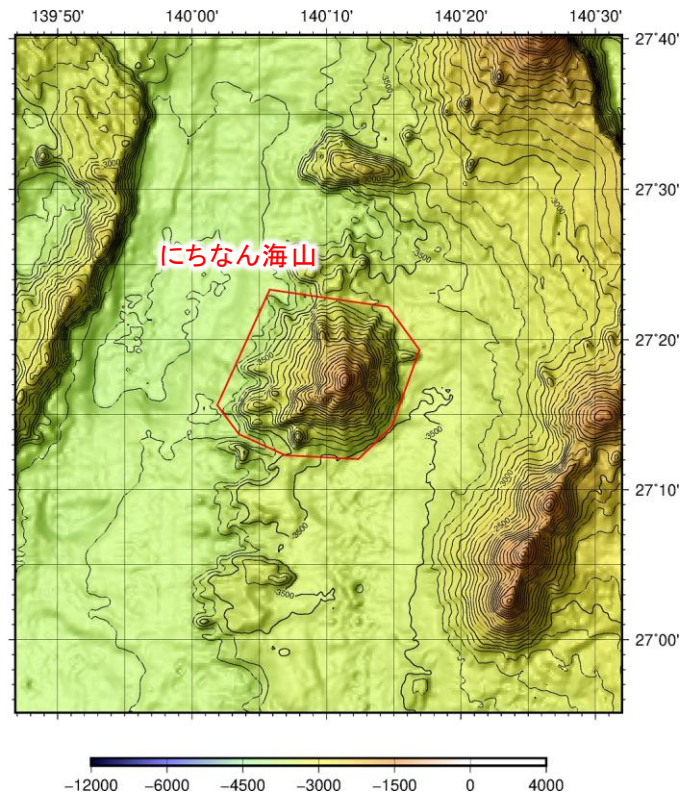


図 5: にちなん海山

(6) のじま海陵、うらが海山

のじま海陵、うらが海山は、小笠原諸島西方、海德海山直近に位置する海底地形である。1984年の海德海山の噴火の際、現場に急行し、その様子を観測した海上保安庁の巡視船「のじま」と「うらが」の功績を表して名称が付与された。

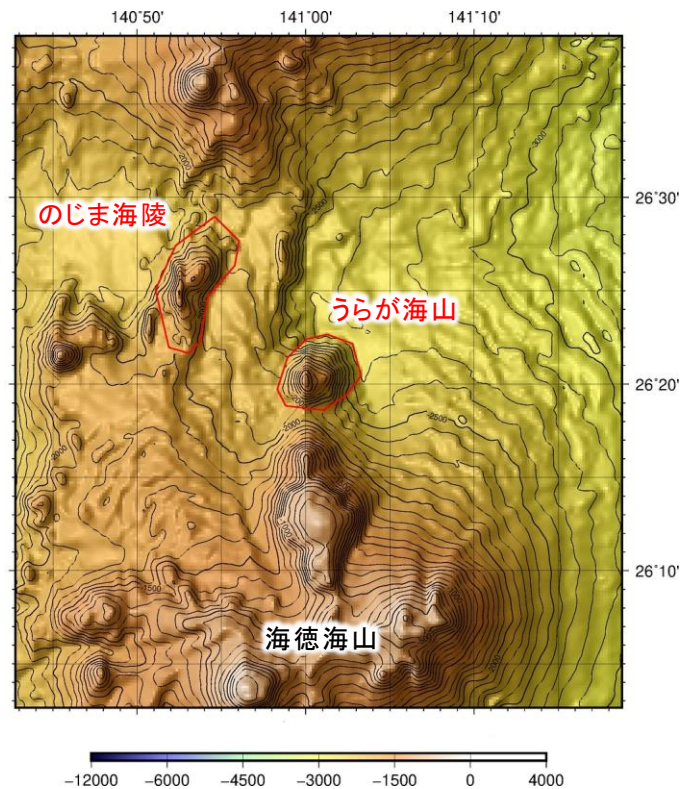


図 6: のじま海陵(左)、うらが海山(右)